

オオハンゴンソウ

分類: 合弁花類、キク科、オオハンゴンソウ属

学名: *Rudbeckia laciniata*

英名: Cut-leaf coneflower

和名: オオハンゴンソウ

別名・流通名: 学名のルドベキア・ラキニアタで呼ばれることもあるが、現在は園芸目的の利用はほとんどないと考えられる。オオハンゴンソウ属の学名であるルドベキアで流通するものは本種以外と考えられる。

原産地と分布: 北アメリカ原産である。

未判定外来生物: なし。

種類名証明書添付生物: オオハンゴンソウ属全種(約30種)

形態的特徴:

花: 開花期は7-10月。茎の先端に直径6-10cm程の黄色の頭状花をつける。舌状花は10-14枚。筒状花は黄緑色。

葉: 下部の葉は長い柄があり5-7深裂し、裂片に粗い鋭鋸歯がある。上部の葉は短~無柄で互生する。

葉の裏にのみ短毛がある。

茎: 横に走る地下茎がある。茎は叢生し、上部で枝分かかれし、高さ1-3mになる。



特記事項: 中部地方以北の寒冷な土地に分布する。路傍、荒地、畑地、湿原、河川敷のほか、肥沃で湿った、ときに湧水のあるところに生育する。開花期は7~10月。横に走る地下茎から茎を叢生する。オオハンゴンソウ属は、日本には自生種はない。本種以外に、ヤエザキハンゴンソウ(ハナガサギク) var. *hortensis*、アラゲハンゴンソウ(キヌガサギク、マツカサギク) *R. hirta* var. *pulcherrima*、オオミツバハンゴンソウ(ミツバオオハンゴンソウ) *R. triloba*が販売され、野生化しているほか、様々な園芸品種が流通している。